

第 58 回北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

令和元年 11 月 11 日(月)、札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂において、第 58 回北海道開発局空港技術研究会議が開催され、空港管理者、エアライン、研究機関、建設・舗装会社、建設コンサルタントなど道内外からおよそ 100 名の方にご参加いただきました。

本技術研究会議は、空港整備に携わる担当者の技術の研鑽などを図る目的として昭和 37 年度から毎年開催され、今年で 58 回目の開催となりました。



発表／成田国際空港株式会社

第 58 回北海道開発局空港技術研究会議プログラム

	発表件名	発表者
発表 1	13:45～14:10 関西国際空港における災害対策の取り組みについて	関西エアポート株式会社 瀬口 均
発表 2	14:15～14:40 成田国際空港における建物の浸水対策について	成田国際空港株式会社 空港運用部門 施設保全部 建築グループ 渋谷 友希
発表 3	14:45～15:10 新千歳空港における耐震対策事業の進捗について	国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課 上席空港専門官 森田 卓也
発表 4	15:30～15:55 空港舗装に施工するグルーピングの養生期間等の研究について	国土技術政策総合研究所 空港研究部 主任研究官 河村 直哉
特別講演	16:00～16:40 北海道 7 空港特定運営事業等の概要	北海道エアポート株式会社 代表取締役社長 蒲生 猛

〈各団体の発表〉

最初の関西国際空港における災害対策の取り組みでは、2018 年の台風 21 号の越波による浸水現象と復旧状況の解析、その解析結果に基づく今後の施設整備の対応策について、続く成田国際空港では、異常降雨による地下空間や建物への浸水対策設備と運用内容について発表がありました。

新千歳空港に関しては、大規模災害発生時に求められる緊急物資・人員等の受け入れ機能を確保するために必要な土木施設に対する耐震対策事業について、各段階における今までの進捗状況の発表がありました。

そして国土技術政策総合研究所からは、北海道の空港舗装には欠かせないグルーピング施工について、アスファルト舗装施工後の養生期間短縮に関する研究成果について発表がありました。

〈特別講演〉

今回の特別講演では、10 月 31 日に国土交通省(航空局)と公共施設等運営権実施契約を締結したばかりの北海道エアポート株式会社の代表取締役である蒲生猛様から「北海道 7 空港特定運営事業等の概要」について、提案概要をもとにご講演いただきました。ご講演では、道外からお客様を受け入れるゲートウェイ機能を、新千歳空港のみでなく、他の道内空港も含めた北海道全域への送客する試みとして、マルチ・ツーリズムゲートウェイという発想により、7 空港の役割分担を明確化し、航空ネットワークの分散・拡大を図るとのご説明がありました。



特別講演／北海道エアポート株式会社 蒲生社長

今回の研究会議の発表内容は、空港の防災対策や運営委託といった最近の話題に関わる関心の高い内容であり、各発表後の参加者からの質疑も含め、研究会議による情報共有等は有意義なものでした。

最後に、御多忙の中、本研究会議で発表・講演していただきました皆様、並びに聴講にお越しいただいた皆様、改めて感謝申し上げます。